

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年9月28日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.51】

## JR総連は革マルと濃密な関係にあることは間違いない！

弁護士を巡るJR総連と革マル派との密接な関係から、両者の「対立」について検証したい。東労組元中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)は、W弁護士が革マル派党中央を代理し、JR革マル派との話し合いに出席していたと述べたが、2005年12月にはJR総連側に就いていたことを説明した(No.46)。そして、東労組前委員長の石川尚吾氏も「話し合い」の存在を認めた(No.47)。前号で紹介した「月刊日本」(2000年8月)では、東労組の顧問弁護士が2000年6月の大会で交代したと書かれており、この「話し合い」の件も含め、JR総連は革マル派党中央に近い弁護士と距離を置いてきた経過は認められる。しかし現在は、以下の分析の通り、完全に「復縁」していると判断せざるを得ない。

### 革マル派党中央を代理したW氏は今やJR総連の重要裁判を多数担当！

W氏は、本間氏の証言通り、2005年12月のJR総連関係先への家宅捜索において「目黒さつき会館」にいたのがテレビニュースで“現認”されたほか、最近では、東労組松崎元会長が原告となっている「週刊現代」に対する損害賠償等請求裁判、JR総連・東海労組合員による文書窃盗容疑の刑事事件(蒲郡駅事件)の裁判、「JR東労組を良くする会」作成の「JR革マル派43名リスト」に対し松崎氏ら当該者が原告となっている損害賠償等請求裁判、JR総連元委員長の福原福太郎氏が書いた「小説労働組合」に対しJR総連、東労組、松崎氏が原告となっている損害賠償等請求裁判、JR総連や鉄道福祉事業協会が原告の国家賠償請求裁判、松崎氏が原告の国家賠償請求裁判、JR総連四茂野特別執行委員(前副委員長)が原告の「週刊現代」に対する損害賠償等請求裁判(控訴審)など、彼らの重要裁判について、代理人として悉く名を連ねているのだ！

また、「No.49」で紹介した革マル派弁護士の中で、H・T氏は、「JR革マル派43名リスト」裁判や「小説労働組合」裁判で代理人を務めている。

石川氏も認めるJR総連と革マル派党中央との「話し合い」でW氏が党中央を代理し、その人物が、現在、JR総連・東労組の重要裁判の代理人を務めているとなれば、彼らは、W氏を革マル派の中心人物と知ったうえで事件を依頼していることになる。W氏は上記の「週刊現代裁判」で松崎氏への原告側の本人尋問も行ったが、そのことをみても、松崎氏とW氏とは深い信頼関係で結ばれていることは疑いがない。これらの裁判は、JR総連・東労組にとって、革マル派との関係を暴露される可能性の高い危険な裁判であり、内情を最もよく把握している革マル派弁護士を代理人に加えたいと考えたのではないだろうか。

これらの状況証拠からみて、JR総連・東労組、つまりJR革マルと革マル派党中央との「対立」は完全に解消し、今や、相当濃密な関係になっているとみて間違いない！

### 九州労は革マル派との密接な関係を自白！

前号で検証した、九州労が2000年10月に「革マル派応援団長」として糾弾したM氏は、91・93年に九州労の労働委員会事件を担当していたことが判明している。かつて代理人を務めた人物を、自ら「革マル派応援団」と断定したということは、革マル派弁護士と知って事件を依頼していたことになる。彼らは、革マルとの密接な関係を自白しているのだ！